

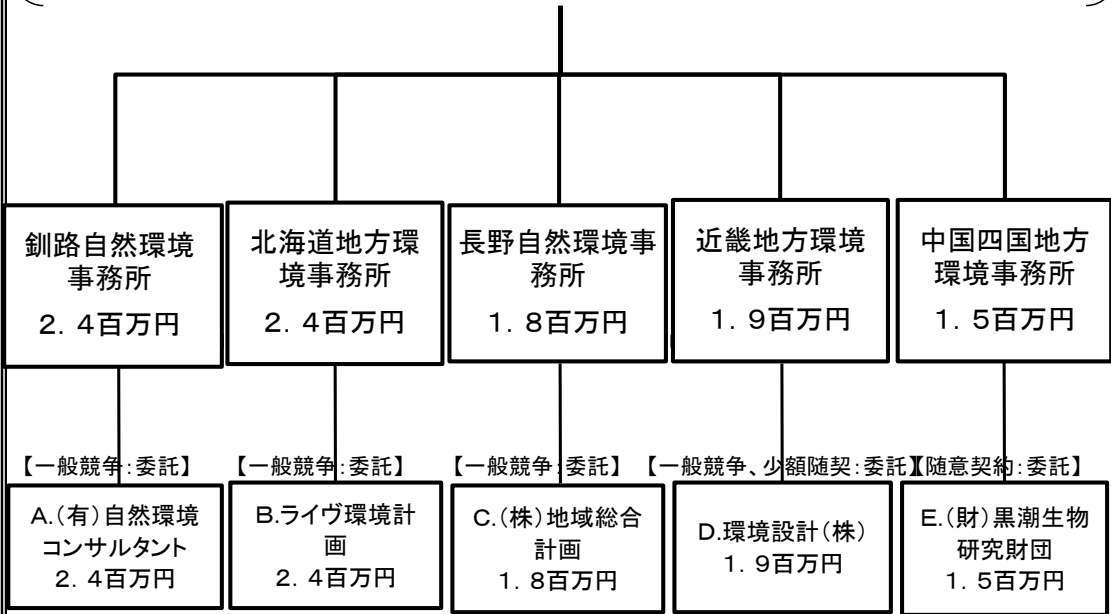
行政事業レビューシート

(環境省)

予算事業名	国立公園管理計画等策定調査費	事業開始年度	平成18年度	作成責任者		
担当部署	自然環境局	担当課室	国立公園課	課長 上杉 哲郎		
会計区分	一般会計	上位政策	生物多様性の保全と自然との共生の推進			
根拠法令 (具体的な条項も記載)	自然公園法第10条第2・3項、第20条第3項、第21条第3項	関係する計画、通知等	国立公園管理計画作成要領(平成18年4月20日 環境省自然環境局長通知)			
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	自然公園法の実効性を確保するために国立公園管理計画作成要領に基づき、国と地域社会それぞれが保護すべき自然環境、適切な利用環境の確保等について共通認識を持ち、適切な役割分担に基づく管理が進められるよう、管理計画(許認可の基準を含む)や管理方針を策定することにより、適切かつ円滑な国立公園の管理を実現する。					
事業概要 (5行程度以内。別添可)	国立公園を取り巻く自然条件、社会条件は多種多様であるため、一つの国立公園であっても、地域毎に様々な保護又は利用上の課題を抱えている。このため各国立公園を地域区分し(管理計画区)、それぞれの自然的社会的条件を踏まえ、検討会により地域の合意を形成しながら、風致景観の保護と適正な利用を推進するために必要な事項やその具体的な取扱い方針、許認可の基準等についてを定めた「管理計画」や個別の問題点ごとにその解決のための「管理方針」を作成する。					
実施状況	平成21年度では、中部山岳国立公園上高地地域など、5ヶ所の地域において、管理計画等策定のための調査、検討会及びとりまとめ等を実施した。					
予算の状況 (単位:百万円)		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度要求
	予算額(補正後)	11	12	14	13	13
	執行額	9	11	10		
	執行率	75	95	72		
	総事業費(執行ベース)	9	11	10		
自己点検	支出先・用途の把握水準・状況	環境省において、発注時よりその内容を把握しながら実施するとともに、対象国立公園を担当する地方環境事務所及び自然保護官が、当該事業の執行に際しては、期間全体にわたって指導・監督に努めており、使途の把握水準は確保されている。 特に、現地調査に関する連絡調整、会議開催内容等について事前指導を行った上で会議に出席するとともに、調査実施前には時期、内容、体制等の調査計画や使用する備品等についても確認し、必要な助言・指導を行っている。				
	見直しの余地	自然公園法に基づき、国としてそれぞれの地域の特性に応じて、各国立公園における許可基準等の細部の取り扱い等について作成しているものであり、平成23年度は、8地区について管理計画の策定作業を実施する予定であるが、地域住民等のより多くの関係者の理解、意見を募集するため、地域住民等を対象とした現地説明会を開催するなど、効率的に管理計画を策定することで、国立公園の円滑な管理のみならず、国民に国立公園に関する必要な事項を示すことができるため、継続して実施する必要がある。				
予算・監視・所見率	一部改善 (管理計画に従い、継続部分、新規着手部分の最適な予算配分を検討し、効率的な事業実施に努めるべき。)					
補記						

環境省
10百万円

自然公園法の実効性を確保するために国立公園管理計画作成要領に基づき、国と地域社会それぞれが保護すべき自然環境、適切な利用環境の確保等について共通認識を持ち、適切な役割分担に基づく管理が進められるよう、管理計画（許認可の基準を含む）や管理方針を策定することにより、適切かつ円滑な国立公園の管理を実現する。



資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位:百万円)

知床五湖駐車場及びカムイワッカ地区の自動車混雑状況の予測及び対策並びに渋滞緩和効果についての予測、知床国立公園における自動車適正利用の方向性の検討を行った。

利尻山の自然環境の持続的な保護と利用を図るために、利尻山登山利用のあり方を定めた管理方針の検討調査を行った。

上高地地域の冬期間の入山者の現状を把握するとともに、登記利用に関する対応方策等の検討を行い、管理方針をとりまとめた。

瀬戸内海国立公園成ヶ島地域において維持管理方針を策定するにあたり、植生、哺乳類、鳥類、利用状況の基礎調査を実施した。

足摺宇和海国立公園の海域におけるサンゴ群落の保護体制を構築するため、現況を把握し、多様な主体が持続的に参加可能な保全活動手法を検討するとともに、保全のための普及啓発を行った。

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の
 金額が支出されている者について記載する。使途と費目の双方で実情が分かるように記載)

A. (有)自然環境コンサルタント			E. (財)黒潮生物研究財団		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
人件費	給与等	1.7	人件費	給与等	0.9
業務費	旅費	0.2	業務費	備船費	0.1
業務費	印刷製本費	0.03	業務費	空気タンク費	0.04
業務費	消耗品	0.02	業務費	潜水器具使用料	0.05
その他	一般管理費等	0.4	業務費	写真器材損料	0.01
			業務費	車両使用料	0.09
			業務費	印刷製本費	0.07
			その他	一般管理費等	0.2
計		2.4	計		1.5
B. ライブ環境計画			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
人件費	給与等	1.4			
業務費	諸謝金	0.07			
業務費	旅費	0.5			
業務費	印刷正本費	0.09			
その他	一般管理費等	0.3			
計		2.4	計		0
C. (株)地域総合計画			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
人件費	給与等	1.2			
業務費	旅費	0.03			
業務費	印刷製本費	0.02			
その他	一般管理費等	0.5			
計		1.8	計		0
D. 環境設計(株)			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
人件費	給与等	1.0			
業務費	旅費	0.1			
業務費	印刷製本費	0.03			
その他	一般管理費等	0.8			
計		1.9	計		0